

令和8年度 第1学年算数 評価規準

● なかよしあつまれ

◆単元の評価規準

- ・ものともを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。<知・技>
- ・観点に応じて、身のまわりのものの集合を捉えている。<思・判・表>
- ・数や形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

1 いくつか

◆単元の評価規準

- ・10までの数及び0の意味や、数え方、よみ方、書き方、数の大きさや順序について理解し、数を数えたり比べたりすることができる。<知・技>
- ・数を用いる具体的な場面に着目し、数の大きさや順序を具体物や図などを用いて考えている。<思・判・表>
- ・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

2 なんばんめ

◆単元の評価規準

- ・個数や順番を正しく数えたり表したりすることができる。また、前後、左右、上下など方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表すことができる。<知・技>
- ・集合数と順序数を用いる具体的な場面に着目し、それらの違いを具体物や図などを用いて考えている。<思・判・表>
- ・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

3 いまなんじ

◆単元の評価規準

- ・日常生活の中で時刻をよむことができる。<知・技>
- ・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。<思・判・表>
- ・時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

4 いくつといくつ

◆単元の評価規準

- ・1つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係づけてみるることができる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、ある数を合成・分解した数を考え、それらを具体物や図などを用いて表現している。<思・判・表>
- ・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

5 ぜんぶでいくつ

◆単元の評価規準

- ・加法の意味(増加、合併)や式について理解し、1位数+1位数で繰り上がりのない加法の計算が確実にできる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。<思・判・表>
- ・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

6 のこりはいくつ

◆単元の評価規準

- ・減法の意味(求残、求補)や式について理解し、1位数-1位数で繰り下がりのない減法の計算が確実にできる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。<思・判・表>
- ・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

7 どれだけおおい

◆単元の評価規準

- ・減法の意味(求差)を理解し、式に表して計算することができる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。<思・判・表>
- ・数や式に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

8 10より大きいかず

◆単元の評価規準

- ・30程度までの数の数え方、よみ方、書き方、数の大きさや順序について理解し、数を数えたり比べたりすることができる。また、繰り上がりのない2位数と1位数の加法、減法の計算ができる。<知・技>
- ・数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かしている。また、繰り上がりのない2位数と1位数の加法、減法の計算のしかたを考えている。<思・判・表>
- ・数に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

9 かずをせいりして

◆単元の評価規準

- ・ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらをよみ取ったりすることができる。<知・技>
- ・データの個数に着目し、身のまわりの事象の特徴を捉えている。<思・判・表>
- ・数量の整理に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

10 かたちあそび

◆単元の評価規準

- ・ものの形を認め、形の特徴を知るとともに、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。<知・技>
- ・ものの形に着目し、身のまわりにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作をとおして形の構成について考えたりしている。<思・判・表>
- ・身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

11 3つのかずのたしざん、ひきざん

◆単元の評価規準

- ・3口の加法、減法の意味を理解し、式に表して計算することができる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。<思・判・表>
- ・数や式に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

12 たしざん

◆単元の評価規準

- ・1位数+1位数で繰り上がりのある加法の意味や計算のしかたを理解し、加法の計算が確実にできる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。<思・判・表>
- ・数や式に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

13 ひきざん

◆単元の評価規準

- ・十-1位数で繰り下がりのある減法の意味や計算のしかたを理解し、減法の計算が確実にできる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。<思・判・表>
- ・数や式に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

14 くらべかた

◆単元の評価規準

- ・長さ、かさ、広さなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすることができる。また、身のまわりにあるものの大きさを単位として、そのいくつかで大きさを比べることができる。<知・技>
- ・身のまわりのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだしている。<思・判・表>
- ・身のまわりにあるものの量に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

15 大きなかず

◆単元の評価規準

- ・2位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方、数の大小や順序を理解するとともに、120程度までの数を数えたり表したり比べたりすることができる。また、簡単な場合について、2位数などの加法、減法の計算ができる。<知・技>
- ・数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かしている。また、簡単な場合について、2位数などの加法、減法の計算のしかたを考えている。<思・判・表>
- ・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

16 なんじなんぷん

◆単元の評価規準

- ・日常生活の中で時刻をよむことができる。<知・技>
- ・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。<思・判・表>
- ・時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

17 どんなしきになるかな

◆単元の評価規準

- ・順序数の加法、減法及び求大、求小の加法、減法の意味を理解し、式に表して計算することができる。<知・技>
- ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。<思・判・表>
- ・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>

18 かたちづくり

◆単元の評価規準

- ・ものの形を認め、形の特徴を知るとともに、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。<知・技>
- ・ものの形に着目し、身のまわりにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作をとおして形の構成について考えたりしている。<思・判・表>
- ・身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。<態度>